

平成 30 年度 厚生労働科学研究費補助金(認知症政策研究事業)
認知症の人やその家族の視点を重視した認知症高齢者にやさしい薬物療法のための研究
分担研究報告書

認知症の人やその家族の視点を重視した
認知症高齢者にやさしい薬物療法のための研究

研究分担者 楽木宏実 大阪大学大学院医学系研究科老年・総合内科教授

研究要旨

「認知症の人やその家族の視点を重視した認知症高齢者にやさしい薬物療法のための研究」の
分担研究を担当する。当分担研究者は、本研究の対象となる認知症高齢者のうち、特に急性期
老年科病棟における実態調査を担当する。

A. 研究目的

急性期老年科病棟において、認知機能障
害を持つ高齢者の薬物療法の実態を調査し、
薬物有害事象の発生に関連する因子を抽
出すること、および患者・介護者の視点、多
職種協働を通じた薬物適正化の成果を検討
すること。

B. 研究方法

大阪大学医学部附属病院老年・高血圧内
科の高齢入院患者において、基本属性、疾
患、薬剤、腎機能など臓器機能、CGA を用
いた ADL と認知機能、生活環境(同居家族
など)、薬物有害作用などの実態調査を行う。
これらの臨床データの中から、特に認知機
能の低下した症例において、薬物有害事象
に関連する因子を抽出し、多重ロジスティッ
ク解析によりオッズ比をスコア化し、重み付
けを行う。

(倫理面への配慮)

本研究は、法令ならびに「ヒトゲノム・遺伝
子解析研究に関する倫理指針」などの指針
に従って行う。また、施設内の倫理委員会に

おいて研究計画について承認を受けて実施
する。ヒト由来の資料を用いて研究を行うた
め、書面によるインフォームドコンセントを行
う。臨床情報や遺伝子多型、エピジェネティ
クスの情報は匿名化の後にデータ保存し、
その運用に当たっては、臨床情報と遺伝
情報を分けて管理、情報の保管はインタ
ーネット接続のされていない施設された独立
コンピュータで行う、保管情報へのアクセ
スは極秘パスワードを知る責任者が行う、な
ど厳密なセキュリティポリシーの下で行う。

C. 研究結果

2018 年 11 月に大阪大学の倫理審査を通
過したのち、ただちに大阪大学老年・高血圧
内科の高齢入院患者を対象に、基本属性、
疾患、薬剤、腎機能など臓器機能、CGA を
用いた ADL と認知機能、生活環境(同居家
族など)、薬物有害作用などの臨床データの
調査を開始し、継続してデータを蓄積してい
る。登録患者の臨床データを蓄積中であり、
今後も継続し解析を行う予定である。

D. 考察

患者データを蓄積中である。研究開始時点での過去 3 年間の当科のデータから、全入院患者の 15%程度が欠損データや短期入院などの理由により解析対象から除外され、1 年あたりの解析対象患者数は 200 名程度と見込まれている。現段階ではほぼ予定通り進捗している。

E. 結論

本研究においてほぼ予定通り登録患者の

臨床データを蓄積中であり、今後も継続していく予定である。

G. 研究発表

1. 論文発表:なし
2. 学会発表:なし

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む。)

なし